

巡回展 変わりゆく品川の風景 5 地区のまち並み—大崎地区—

期間	令和5年5月16日（火）～6月18日（日）34日間
会場	総合体育館 1階ロビー・地下1階通路
観覧料	無料
観覧者数	1,104名

〔開催趣旨〕

品川歴史館が大規模改修工事のため休館している間、当館の博物館活動を幅広く区民の方に紹介し、あわせて品川区内の各地区の街並みの移り変わりを展示して、地域へのより強い愛着を持っていただけるように各地区で巡回展を開催した。令和5年度は、総合体育館、南大井文化センター、こみゅにていふらざ八潮で行った（令和4年度は、荏原文化センター、品川区役所本庁舎、品川区図書館で開催）。

令和5年度の第1回目は総合体育館で開催した。江戸時代、後の大崎地区には、荏原郡品川領上大崎村・下大崎村・桐ヶ谷村・居木橋村、馬込領の谷山村と麻布領の今里村の一部、江戸府内に属していた品川台町（北品川宿の枝郷）・永峯町・六軒茶屋町（上大崎村の枝郷）があり、その土地の多くは田んぼや畑が広がる農村だった。明治時代以降、行政区域に変動があったが、明治22年

（1889）5月1日の町村制施行時に、現在の大崎地区とほぼ変わらない範囲で大崎村が誕生した。その後、明治時代の終わり頃から目黒川沿いを中心に工業地帯となり、それに合わせて宅地が広がるようになった。昭和7年（1932）には大崎町・品川町・大井町が合併して品川区となり、同22年（1947）に荏原区と合併して現在の品川区となり、その内の大崎地区として今日に続いている。

本展示では、品川区域全体や大崎地区の変遷を地図で追いつつ、大崎町役場、展示会場周辺など大崎地区の地区の風景の移りかわりを写真や地図などのパネルで紹介した。

